

同窓会のサービスイろいろ

▼若手音楽家支援プロジェクト報告

講師・生徒紹介サービス

ホームページリニューアルのご案内

若手音楽家 支援プロジェクト

若手音楽家支援プロジェクトとは？

同窓会が掲げる使命の一つに、「若手音楽家の支援と音楽文化振興に寄与する」ということがあります。これは、2002年に行われた50周年記念事業の際、決定された事項です。

近年、同窓会主催コンサートなどの活動により、「音楽文化振興への寄与」は実行されつつあることを実感します。しかし一方、「若手音楽家の支援」については、世界的な不況や、音楽業界という特殊性もあり、若手の就職や演奏活動の場を提供することは、なかなか困難な状況です。

同窓会では、現在本格始動には至っておりませんが、試験的に若手演奏家に様々な演奏の仕事を紹介することで、今後の音楽活動に役立つ体験を提供していきます。

プロジェクト参加者の感想

テレビ東京「この日本人がスゴイらしい。」のVTR撮影で小澤征爾役の役者さんの手の吹替えに参加。

今回のプロジェクトでは、テレビ番組での演奏シーン

の撮影に参加させて頂きました。普段見る事のない撮影現場の仕事の進み方、関わる人々の役割分担、それぞれの持つ能力や作業への取り組み方、お互いへの配慮、どのように意思の疎通を図るか、予算や時間など様々な制約がある中で理想の追求、そして、その場に於ける自分がどんな存在である事が価値を見出され、喜ばれるのか…等々を興味深く見つめながら、参加する時間を持ち得たように思います。生まれてこの方、自らの置かれた世

界の中で遭遇した経験の影響を受けて少しずつ自己を形成し、常に変容し続けてきた結果としての今の私は、ある方向から言えば、人生の中の多くの時間を音楽との関わりに割いて過ごしていきたいと意図しております。そして、現在のところ自分の抱える大きな課題は、多方面において能力を研鑽していくことと、その能力を他者との関わりの中でどのように生かすかという模索の二点であるうかと考えております。

そのような状況にある私が体験した今回の仕事の間では、考え方や感じ方、能力、欲求などの点で様々な差異のある多くの人々が関わり合う中で、各自が自分の個性を保持しつつ如何にして他者と協調し、円滑に集団を構成していくか、或いは、どのような要素を持った人々がどんな場所でも何を必要とされ、どう行動しているのかという、社会の至る所で日夜行われているであろう営みの一端を、今まで私が殆ど関わってこなかった形で目撃し、新鮮な体験として享受し、ひいては自分の能力を生かす場としての他者との関わりをどのように構築していくたらいいか、という点に思いを巡らすよすがとなりました。

これまでもそうであったように自らの直面する全ての経験を糧として、私は人生を歩んでいくであろうかと思いますが、自らの思考だけで選択したり、自分自身だけの力で得られる場所

に赴くだけでは、自ずとそこに「現在の自分」という枠組みの限界が大きく影響を与えてしまうかと思えます。その意味において、この支援プロジェクトは今までの私一人では出来なかった体験の機会を与えて下さいましたし、その事が私に普段とは違った色合いの刺激をもたらしてくれました。

このような枠組みを企画され、立案され、様々な交渉事などの労を厭わず実現して下さいいる同窓会の関係者の皆様に深く感謝申し上げます次第です。

企業入社にて

弦楽四重奏演奏の仕事を経験

今回、同級生に誘ってもらったのがきっかけで、初めてこのプロジェクト

に参加させて頂きまして。

フリー演奏家として

活動する場合、演奏だけでなく事務的な打ち合わせも自分でする機会が多くなってくると思うのですが、社会に出ると、音楽の事をよく知っている人とだけ仕事をするとは限りません。そういった時に、その職種独自のルールを理解しあうのは時間がかかるかもしれませんが、共通の基本的マナーである「時間厳守」「連絡は正確に素早く」など、当たり前なことを当たり前に行ずるといえることが、実は相手からの信頼を得る近道なのだと思っていました。また、それを次の仕事につなげていくにはどうしたら良いか、などのお話も伺いました。

企業に就職した場合、名刺の渡し方から始まり仕事上でのルールなど、新人研修で教わる機会もあると思います。しかし、音楽の世界の場合、そういったことを教わる機会がないので、自分なりに先生や先輩方をお手本にして習得しようとしていましたが、卒業前に今回のようなプロジェクトに参加させて頂いた事は、とても参考になりました。

卒業も間近になり、学校の友人との話題も自然と将来の話題が多くなります。夢と現実との狭間での葛藤、手探り状態の将来への不安、どうしても周

りからの評価も気になるし、誰がどんな仕事をしているのかという話に敏感にもなってしまう。

「今月は、たくさん仕事をした」と話すことで、自分をアピールしていくことも必要なのか、「口では言わないが、地道にやっつけていけば、見てくれない人は必ずいる」と信じていけばいいのか…そんな悩みも、良く話題に出ます。しかし、同世代の友達は誰もが手探り状態なので、話題の結論としてはどうしても堂々巡りとなり、「何かありましたらよろしくお願ひします」と言い合い、自分の中で進展しないで終わることの方が多いのも正直なところでは。

そんな中、今回のプロジェクトで行って下さった同窓会の方が「今の学生の現状」を聞いて下さったことは、少し気持ちが軽くなるきっかけとなりました。話しているうちに、自分の中で漠然としていた悩みがクリアになってきて、悩んでいてばかりで、実際の解決に対する行動力が足りなかったかな…と自分の反省点も見えてきました。

何より、誰もがオーケストラに入団したり演奏者として活動できるわけではないという現実の中で、ではその中で自分がどうしたらいいかという悩みを聞いてくれる先輩がいるというのは心強いし、就職という事に柱を据えて相談できる場所があるというのは、一人で悩むよりも、もっと広い視野での

答えが見つかる事もあると実感しました。

学校の掲示板には、就職や将来設計についてのガイダンスのお知らせが貼ってあります。

興味をもつ学生は多いと思うのですが、実際に行ったことのある学生は少ないとお聞きしました。実際、私もその1人でした。でも、今回偶然のきっかけでこのプロジェクトを知り、参加出来てとても良かったと思います。友人に話すと、「そんなのあるんだ。知らなかったけど、参加してみたい」と言うのを、よく聞きます。

ガイダンスに出ることが、自分の将来に役立つかは自分次第だと思えます。でも、1人で家で悶々と悩んでるよりは、何倍も次に進むキッカケが見つかると思います。なにより気持ちの方が前向きになれる。私もこれからはガイダンスなどに、積極的に参加したいと思えます。

東京文化会館小ホールにて コンサートスタッフを体験

先日3月
1日に東京
文化会館に
て、コン
サートス

タッフのアルバイトをさせて頂きました。

今回の経験で、コンサートは演奏者の方、本人の努力はもちろん、多くの方々の支えで成り立っていると改めて思いました。

とても貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。
これからも、感謝の気持ちを忘れずに音楽と真摯に向き合っていきます！